

KVMを使用してEFIシエルからLSI StorCliを実行する方法に関するテクニカルノート

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

概要

このドキュメントでは、KVMを使用してEFIシエルからLSI StorCliを実行する手順（フラッシュドライブは不要）について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco UCSサーバでのEFIシエルの使用
- StorCliツールとそのコマンド構文については、次のコマンドリファレンスガイドを参照してください。 <https://docs.broadcom.com/docs/12352476>
- EFIシエルを有効にして起動します。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

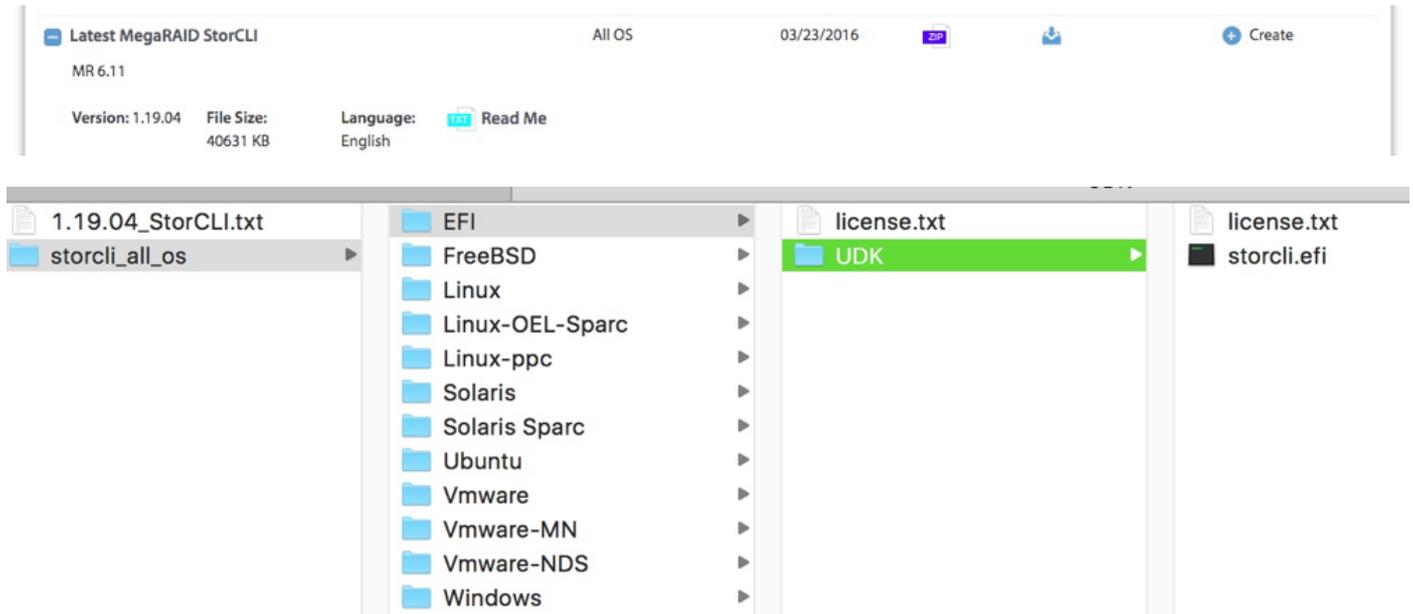
- LSI PCIeベースのRAIDコントローラを搭載したUCS Cシリーズサーバ
- StorCli EFIドライバ/ツール

Storcliツールのダウンロード：<https://www.broadcom.com/support/download-search>

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

設定

ステップ1：管理ソフトウェアとツール([リンク](#))からStorcliをダウンロードし、フォルダを展開してEFIフォルダを移動します。図に示すように、拡張子.EFIを持つStorcliファイルを取得します。



ステップ2：任意の名前で新しいフォルダを作成します。このフォルダはEFIという名前で作成され、storcli.efiはそのフォルダにコピーされます。

サーバのKVMを起動し、図に示すように、[Virtual Media create image]オプションに移動します。



[フォルダからイメージを作成]ポップアップボックスでソースフォルダを指定します。ここで選択したソースフォルダは、以前に作成されたEFIフォルダで、storcli.efiファイルが含まれます。

また、IMGファイルの宛先パスを参照します。図に示すように、FinishをクリックしてIMGファイルを作成します。

```
Intel(R) Boot Agent GE v1.5.53  
Copyright (C) 1997-2014, Intel Corporation
```

```
PXE-E61: Media test failure, check cable  
PXE-M0F: Exiting Intel Boot Agent.
```

```
Intel(R) Boot Ag  
Copyright (C) 19
```

```
CLIENT MAC ADDR:  
PXE-E51: No DHCP
```

```
PXE-M0F: Exiting
```

```
Reboot and Select proper Boot device  
or Insert Boot Media in selected Boot device and press a key
```



ステップ3: ファイルを参照してリムーバブルメディアとしてマウントし、[Read Only (読み取り専用)]ボックスをオンにしないでください。この理由は、ログファイルとIMGファイルを書き込む必要があるためです。

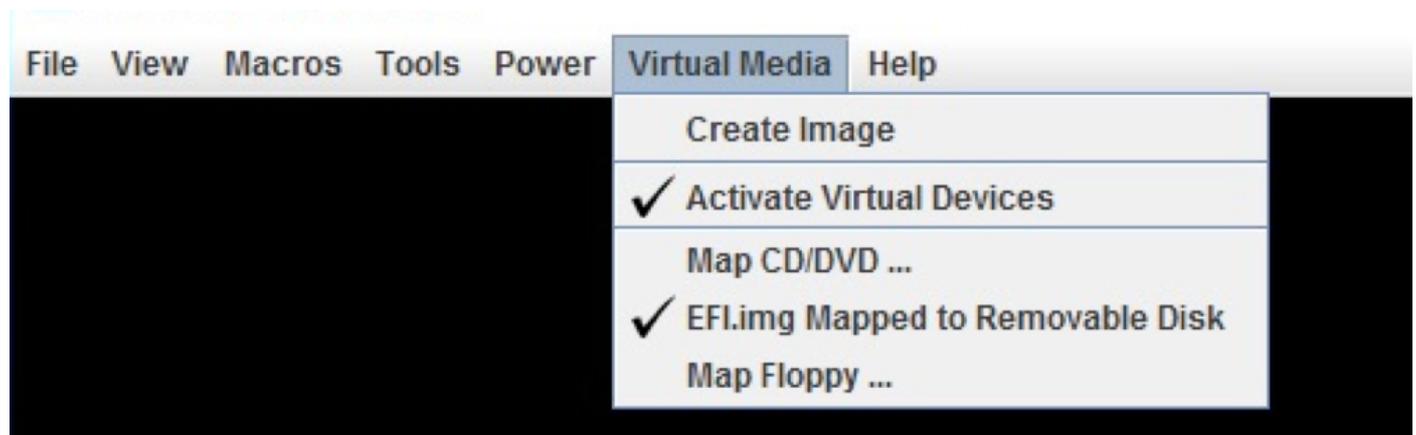
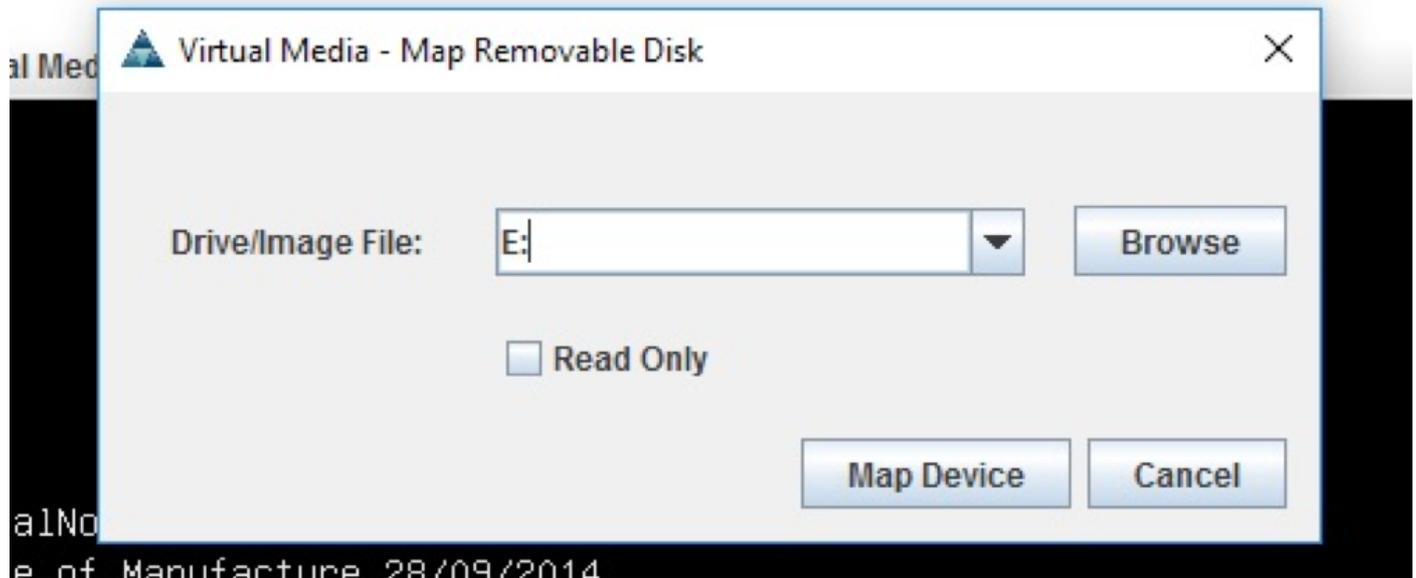
Create Image

✓ Activate Virtual Devices

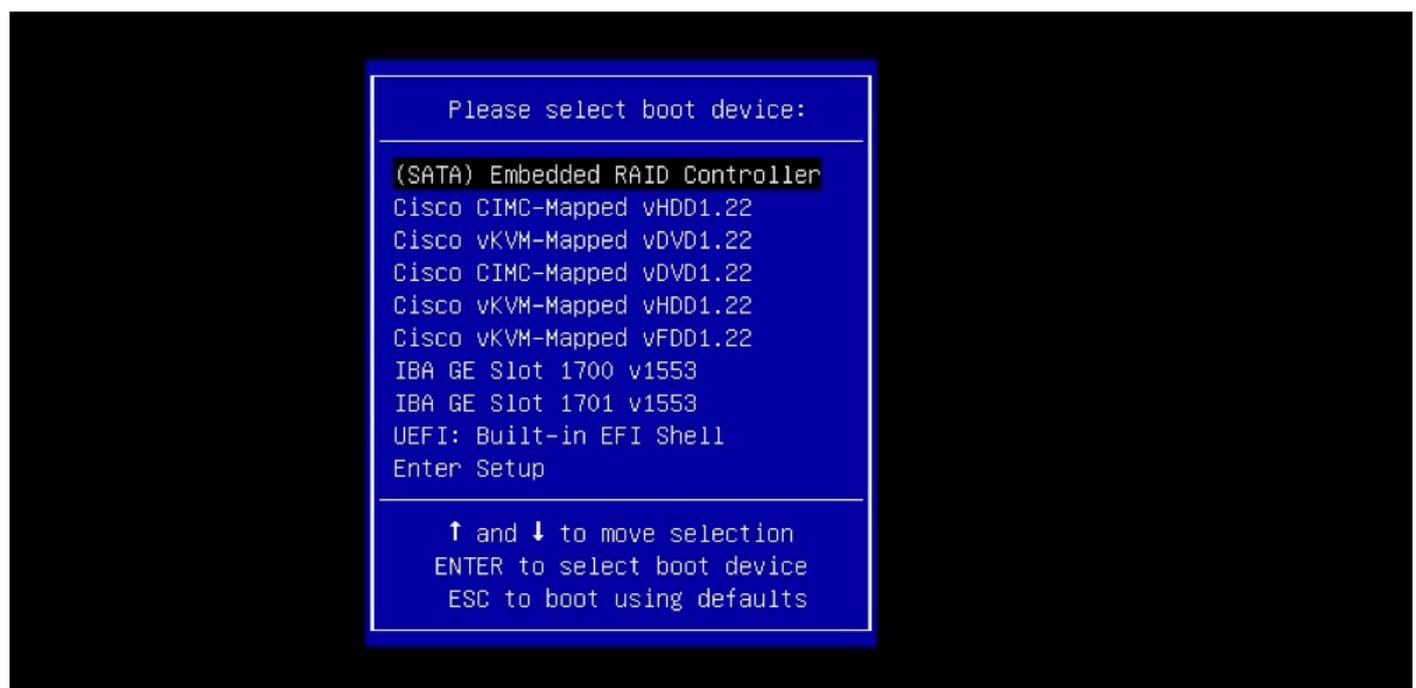
Map CD/DVD ...

Map Removable Disk ...

Map Floppy ...



ステップ4 : 組み込みEFIシェルでサーバをブートする



ステップ5 : シェルにブートしたら、map -rコマンドを使用してファイルシステムマッピングを更新します (サーバのブート前にリムーバブルデバイスが接続されている場合は不要です)。

```
shell> map -r
```

fs0やfs1など、使用可能なfsxファイルシステムのいずれかを入力し、Enterキーを押します。プロンプトがfsx>に変わります。ここで、xは選択したファイルシステムの番号です。

```
Shell> fs0:
```

```
fs0:\> dir
```

```
blk3: Alias(s):
      PciRoot(0x0)/Pci(0x1D,0x0)/USB(0x0,0x0)/USB(0x6,0x0)/Scsi(0x0,0x3)
blk4: Alias(s):
      PciRoot(0x0)/Pci(0x1D,0x0)/USB(0x0,0x0)/USB(0x6,0x0)/Scsi(0x0,0x4)
Press ESC in 0 seconds to skip startup.nsh or any other key to continue.
Shell> fs0:
fs0:\> dir
Directory of: fs0:\
02/01/2016  03:37 <DIR>          4,096  EFI
           0 File(s)          0 bytes
           1 Dir(s)
```

ステップ6 : ディレクトリを変更してEFIフォルダに変更します。

```
fs0:\> cd EFI
```

```
fs0:\EFI> ls
```

```
fs0:\> cd EFI
fs0:\EFI> ls
Directory of: fs0:\EFI\
05/06/2016  11:45 <DIR>          0  .
05/06/2016  11:45 <DIR>          4,096  ..
02/01/2016  03:37          2,545,408  storcli.efi
           1 File(s)    2,545,408 bytes
           2 Dir(s)
```

```
fs0:\EFI> _
```

これで、Storcliコマンドを実行できます。

重要なポイント :

- EFIシェルで上下にスクロールするPgUpキーとPgDnキー。
- page=n (nは出力として画面に表示する行数を表します。例 : page=10)
- 通常のappendコマンドを使用して出力をファイルに書き込みます (フルパスが定義されていない場合、ファイルはfsマウントされた現在の作業ディレクトリに書き込まれます)。
- ファイルへの直接出力は>。次に例を示します。 `storcli.efi /c0 show term log > term log.txt`
- 既存のファイルに出力を追加するには、>>を使用します。例 : `storcli.efi /c0 show term log >> term log.txt`

```

fs0:\EFI\>
fs0:\EFI\>
fs0:\EFI\>
fs0:\EFI\>
fs0:\EFI\> storcli.efi /c0/v0 show all
Controller = 0
Status = Success
Description = No VD's have been configured

fs0:\EFI\> storcli.efi /c0/eall/sall show all page=10
Controller = 0
Status = Success
Description = Show Drive Information Succeeded.

Drive /c0/e8/s1 :
=====

-----
EID:SlT DID State DG      Size Intf Med SED PI SeSz Model          Sp
Press any key to continue
-

```

次の図は、出力をstorcliと同じフォルダ内のファイルに保存する例を示しています。トラブルシューティングの後、EFI.IMGファイルを抽出/マウントして、ログを収集できます。

```

fs0:\EFI\> ls
Directory of: fs0:\EFI\
05/06/2016  11:45 <DIR>          0  .
05/06/2016  11:45 <DIR>          4,096  ..
02/01/2016  03:37          2,545,408  storcli.efi
          1 File(s)    2,545,408 bytes
          2 Dir(s)
fs0:\EFI\> storcli.efi /c0 show termlog > Termlog.txt
fs0:\EFI\> storcli.efi /c0 show termlog >> Termlog.txt
fs0:\EFI\> ls

```

```

fs0:\EFI\> ls
Directory of: fs0:\EFI\
05/06/2016  11:45 <DIR>          0  .
05/06/2016  11:45 <DIR>          4,096  ..
02/01/2016  03:37          2,545,408  storcli.efi
05/10/2016  14:25          853,710  Termlog.txt
          2 File(s)    3,399,118 bytes
          2 Dir(s)
fs0:\EFI\> _

```

IMGファイルを調べて、ログを取得します。

ログの収集時に実行する重要なコマンドがいくつかあります。

- `storcli /c0 show all > adpinfo.txt`
- `storcli /c0 show events file > Events.txt`
- `storcli /c0 /eall show phyerrorCounters > Phy.txt`
- `storcli /c0 show termlog > Termlog.txt`
- `storcli /c0/eall/all show all > PD.txt`
- `storcli /c0/vall show all > VD.txt`
- `storcli /c0/cv show all > BBU.txt`

確認

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

トラブルシューティング

現在、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。